

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年9月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地	鹿児島市西陵6丁目21番21号 (電話) 099-283-0991
自己評価作成日	令和2年7月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西陵団地の中心部に位置し、周囲にはスーパーや銀行、学校、郵便局、医療機関などがあり、とても利便性の高い所に建っている。道路を挟み同系列のグループホームが2事業所、老健施設も同敷地内にあり、災害時や緊急時の連携が取れている。

コロナウイルス感染予防の為、面会等制限される環境の中でもグループホーム内で毎月行事等を行い、季節の移り変わりや昔の思い出を振り返り楽しい時間を過ごせるよう配慮している。また、地域とのふれあいが難しいため、ホームでご入居者様と一緒にマスク作りや石鹸作りを行い、1日でも早く地域の方々と一緒に交流できる日を願い地域の方々へプレゼントしています。食事も、ご入居者様のお好きな魚を直接仕入れることにより、お刺身の提供や旬の魚が提供できるよう取り組んでいます。毎日、体操やレクリエーション家事のお手伝いなどを通して、生き生きと生活できるように支援しています。職員は入居者に明るく接することでいつも、笑顔が絶えないホームを目指しており、法人内の協力医療機関や、ご家族、地域の方々とも密に連携をとり、包括的に支援できるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣にはスーパーをはじめ商店や薬局、銀行、中学校、公園等が集中して利便性のよい環境である。関連施設とは避難訓練や各種の行事など相互に協力体制が築かれ、母体の病院とは24時間連携が図られて利用者や家族の信頼は厚い。

地域の町内会および「まちづくり協議会」に加入して夏祭りや学校の行事には積極的に参加している。ホームの運営推進会議や各行事でも家族や地域の方々とふれあい、ボランティアや職場体験学習等も受入れて地域とのつながりは非常に深い。現在これらの活動が感染症で休止中だが、利用者や職員がマスクや石鹸を手作りし、メッセージも添えて家族や地域住民に贈って喜ばれている。

管理者自身が職員の気持ちに寄り添うことを基本にして、日常の声かけの工夫のほか、職員の役割も明確にして相談や意見、提案を出しやすい雰囲気作りをしている。研修の充実を図り、必要時には個別面談をするなど、職員とよく話し合いながら業務改善やサービスの質の向上を進めている。

また、管理者と職員は、利用者及び家族の心身の状況にも寄り添い、利用者が家庭的な雰囲気の中で楽しく穏やかに過ごせるよう環境づくりに努めている。具体的には季節を感じられるよう行事食や手作りおやつ提供、季節感のある様々な手作り作品、毎月の工夫を凝らしたレクリエーション、季節を感じられる外出などを、職員と利用者が一緒に行っている。これらは利用者個々のケアプランに、丁寧にわかりやすく組み込まれ日々の支援に活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを踏まえた事業所の理念を作っており毎朝、申し送り後に、実践につながるように理念を唱和している。	地域とのふれあいの中で、利用者の思いを尊重して楽しい生活ができるように、利用者に寄り添いながら日々のケアに取り組んでいる。パンフレットへの記載や掲示、朝礼での唱和、日々のケアで理念の意義を振り返りながら共有、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の総会、夏祭り、防災訓練などの行事参加をし、地域の方々との交流を積極的に行うように努めている。また、マスクや石鹸を作成し、地域にお配りし交流を図っている。	感染症により地域交流も難しい状況であるが、手作りのマスクや石鹸を地域に配布して喜ばれている。従来より自治会の清掃や夏祭り、学校の運動会や文化祭等に参加して親しく交流している。ボランティアや実習生受入れのほか、ホームの行事や避難訓練、運営推進会議などに地域の方々の参加を得ている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	2か月に1回必ず開催している運営推進会議には入居者18名も出席し、地域の町内会の会長や、民生委員、地域包括支援センターへお手紙をお送りし、認知症の理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、避難訓練やイベント、勉強会などを通して地域の方々と一緒に取り組んで頂くことにより、実際を見て意見を頂き、サービス向上に活かしている。	会議時にホームの行事や避難訓練、勉強会等も実施しながら、利用者や家族・民生委員・地域住民・地域包括職員等が参加して定期的開催されている。ホームの現況や活動並びに利用者の暮らしぶりの報告のほか、訓練や勉強会、行事等についても意見交換が活発に行われ、内容を職員が共有してサービスや業務の改善に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所は生活保護受給者の受け入れ施設である。紙おむつの現物支給の事や、生活保護受給者の入居に関しても直接市の担当者と連携をとり協力をしている。	地域包括センターの職員との協力体制の構築や介護相談員の受入のほか、市担当者とは、主に電話やメールで各種の手続き等の際に、ホームや利用者の現況なども伝え助言や対応を得てサービスに活かしている。ウェブの会議・研修会等でも意見や情報の交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全職員が「指定地域密着型介護サービス指定基準における禁止の対象となる行為」を正しく理解しており身体拘束をしないケアをしている。また、身体拘束にあたらぬも立ちにくい等入居者の目線で行動の妨げにならないよう配慮できるよう研修等を行っている。	主にホームのミーティングで言葉による行動制限を始めとする身体拘束や高齢者虐待等の勉強会を、利用者の立場ではどのようなことが身体拘束になるかを職員が理解できるよう具体例も交えて実施している。職員は利用者個々の状況を十分把握するように努め、必要な対応を繰り返し話し合っ共有し支援に取り組んでいる。玄関等の施錠は原則として行わず、利用者が外出しそうな場合は職員が連携して見守りや声かけを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について「事業所ミーティング」で研修をしている。スタッフもお互いに見過ごすことがないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度・権利擁護については事業所ミーティングで研修をして理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には2人対応をし、詳しく読み上げて説明し不安や疑問には十分対応している。改定時にはその都度書類を郵送して同意をもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご案内を毎回はお知らせをして意見を聴いている。面会時にもその都度要望等ありませんか？と聴いている。居室入り口にご家族との連絡ノートの設置をしているため家族の意見が聞きやすい。また、面会制限の中でも定期的にご家族へ近況を報告するよう努めている。	管理者および職員は、利用者や家族との信頼関係を大切にしている。利用者とは暮らしの中で思いや意見の把握に努め、現在は面会制限のため家族からは電話で意見をもらっている。従来は来所時や家族会の際に話しやすい雰囲気を作り多くの意見を得ている。居室には家族との連絡ノートもあって意見収集に活かしている。職員が内容を共有して対応や利用者の近況などを家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所のミーティングや普段の業務の中でも、積極的にコミュニケーションをとり、職員の意見を確認している。意見は月1回の管理者会議時に質問したり、報告しています。	管理者は常に話しやすい環境作りに努め、職員の気持ちへの寄り添いや育成を大切に接している。申し送りや日常業務、ミーティング、必要時の個別面談等で職員の意見や提案、特に学びたいことややりたいことを十分に聞き取ることや業務改善やサービス向上、職員育成に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件等の変更点や注意点を管理者会議時に確認し、職員へ連絡するとともに、各職員の得意なことを伸ばしやりがいに繋がるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等の中止のため、職場内での介護技術研修等に力を入れて取り組んでいます。また、業務中でも介助方法等の相談や一つのケアをなぜ行うのかという事を理解して働けるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>母体の病院や、同系列の特養の研修にも参加させていただきグループワークを一緒にしたりする機会があり事業所間の交流ができています。また、石鹸作りを近隣のホームと一緒にやる事で交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設見学・入居の希望があった時点で現在利用しておられるところと連携を取り、面談や情報を提供してもらってご家族とも納得いくまで説明し、話を聞くようにしています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>よく利用料や、空き状況の問い合わせがあります。実際にホームを見て戴き、サービスの利用を開始されるように家族との信頼関係作りをしています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在受けておられるサービスをお聞きし、ここでのサービスを利用することが、適切か、利用者・ご家族が選択できるように支援しています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事のお手伝い等を通して、職員と入居者がともに支え合う意識で関係性を築いています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族に連絡を取り、状況や今後の可能性をお伝えすることにより、御家族もご本人の為に何が出来るか考える時間を取れるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の自宅の近隣の人が面会に来られる場合も居室へ案内しお茶・お菓子を出してして、ゆっくり話ができる環境を提供する様にしています。面会制限の中でも、お電話等で連絡できるようにしています。	面会は制限中だが、従来より家族をはじめ利用者の友人・知人の訪問が多く、居室でゆったりと過ごせるように配慮している。家族とは外食や墓参り等に出かけることもあるが、現状は電話での家族との連絡を支援している。利用者の趣味や日々の家事手伝い、工夫したレクリエーション等を職員と一緒にやっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や会話にも気を配りホールでの席替えや2, 3人掛けのソファなどを置き孤立しないように職員が中に入り支えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したり、他のホームへ移動、入院等の場合、その行先に情報提供を行ったり、その後の相談等をおこなったり継続してサービスが提供されるようフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望を直接伺ったり、意向が伝えられない入居者はご家族面会時等に確認している。希望があった際は、必ず申し送り全スタッフが把握に努めている。	利用者との個別の対話も含めて、日常の言葉や表情・所作から思いや意向を察知して、心身両面の状況を正しく理解できるよう努めている。特に本人の何気ない言葉や所作も正確に記録して情報の共有を図り、家族とも相談しながら最良の支援となるように努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みがあった際、訪問し面会を行い本人、ご家族、関係者よりこれまでの生活習慣、生活歴、馴染みのもの等の情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の睡眠、身体状況を夜勤者へ、同じく夜勤者は夜間の様子を日勤者へ申し送りを徹底しています。心身両面を、総合的に判断して職員はケアにあたっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、ご本人やご家族の意見を中心に、職員とカンファレンスを行い作成をしています。サービス開始前にご家族に説明・同意サインをもらった上で行っています。必要に応じて変更した場合もプランの変更をしています。	利用者や家族の思いや意見を聞き、主治医や看護師の意見も加えて話し合い、特に利用者の気持ちに寄り添うケアを大切に考え、職員の意見やアイデア・気づきも反映したきめ細かなわかりやすい介護計画を作成している。日々の様子や変化などは、利用者の心身の状態や本人の言葉まで経過記録に記述し、モニタリングやカンファレンスで話し合い、計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の状態を細かく観察し、食事・排泄・歩行などや心身状態や、本人の発する言葉まで記録して援助し、職員間で共有しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その方のその日の状況に合わせてレクリエーションを変更し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を文えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者が安全に安心して地域で暮らすことができるように、地域の行事も伝えるようにしています。運営推進会議にも町内会会長・民生委員も参加しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月1回かかりつけ医へ受診し、その方の状況、バイタル等を伝え、ご本人より伝えたいことは伝えて頂き、ご家族の希望等がある際はその時に上申している。</p>	<p>利用前の受診の経過は十分に把握され、家族や医師と連携し、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を適切に支援している。専門医の受診も含めて受診状況や対応は職員及び家族で共有されている。また、母体医療機関とのオンコール体制により緊急時にも適切な医療が受けられる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	職員に看護師はいないので、常に入居者の状態を把握し早期発見に努めている。特変あった際はかかりつけ医に連絡しすぐ受診する様にしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入居者が入院した際は入院先に情報提供し、こまめに病院やご家族と連絡を取りながら、今後の方針を決定している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化したり、終末期に向けての話は、それが必要になった時点で、主治医に相談し、ご家族に伝えるようにしています。ターミナルについては事業所として今後どのようにしていくか現在検討中ですが、可能な限りご本人やご家族様の意向にそったサービスが提供できるよう取り組んでいます。	重度化や終末期のケアについては、「重度化や看取りに関する指針」で契約時に利用者と家族に十分に説明を行っている。利用者の段階に応じて職員やかかりつけ医、看護師、家族と十分な話し合いを行っている。本人や家族の希望に可能な限り添えるように、病院への移動も含めて、ホームとして適切な支援が提供できるように努めている。母体医療機関と24時間体制で連携がとれ家族の安心感につながっている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変時には、事業所のマニュアルに添って動き、ホットライン使用する。月1回の職場内研修で、緊急時の対応の研修も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間・昼間想定と地震避難訓練の年2回実施しています。近隣の施設にも知らせて応援をもらう体制で実施しています。</p>	<p>火災や地震を想定して、年2回消防署の協力で夜間想定も含む消火・通報・避難訓練を行っている。グループの近隣施設や地域住民との連携も十分に図られ、職員の災害対策への意識は高い。スプリンクラーや自動通報装置等の設置や点検、食料・飲料水、頭巾や緊急時の持ち出し袋等の備えも問題はなく、関連する救命講習や研修も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体である同系列病院の実施する研修にも参加し、各自のスキルアップに努めている。また、ユマニチュード等の勉強会をホームでも実施している。言葉つかいなどにも気を配り人格を尊重し、プライドに傷がつかないようにことばかけを意識するよう伝えている。	利用者の心に寄り添い、やりたいことなどを大切に思い、日常のケアやミーティングで職員相互に確認して丁寧な声かけや言葉遣い、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。マニュアルも整備し、接遇や個人情報保護などの研修で職員の意識付けを図っている。各種の記録や居室の保護にも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「何々しましょうか」「何々しませんか」等、常に同意が得られるような声掛けしている。常に入居者が選択しできるような声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活レクやレクリエーション活動の声掛けは強制では無く本人が自由に参加できるよう努めている。入居者がしたい事やしている事が継続できるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問カットを2ヶ月に1回実施している。衣類は常に整理整頓し本人が好む物が分かりやすく選べるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は誤嚥のある入居者も含めて1人1人異なるが好みも聞き献立を立てている。職員も同じテーブルで、食事をしてコミュニケーションをとっている。	旬の食材を活用して利用者の好みも献立や味付けに反映させ、とろみやきざみ食等の工夫を行っている。野菜の下ごしらえや調理・盛り付け等利用者のできることも一緒に行っている。刺身や出前の提供、ソーメン流し、季節の行事食やクリスマス会の焼き肉、手作りおやつなど利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録し、口頭で申し送っている。飲水拒否がある場合は、それに代わる飲み物を提供し栄養バランスや、カロリーについては同系列の病院の管理栄養士に評価を貰っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず職員が各入居者に声掛けし、居室案内し、口腔ケアの介助見守り確認を行っている。義歯は定期的にポリデント消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	「基本はトイレで排泄」を常に心がけている。常に情報を共有し入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。本人の訴えを尊重しトイレ案内を行っている。	やむを得ずポータブルトイレを使用することもあるが、職員は連携して見守り、個々のリズムも把握して、誘導や声掛けを工夫しながら可能な限りトイレでの排泄を支援している。おむつやポータブルトイレの使用など、個々に合わせた工夫を丁寧にプランにも組み込み、言葉使いをはじめ本人の誇りやプライバシーを損ねないように丁寧な対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立で食物繊維が十分とれるよう計画している。散歩や通路歩行を取り入れ適度に運動を行っている。排便状況を記録し必要に応じて処方薬の下剤で調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴日となっており希望時に随時入浴できるようになっている。温泉の為喜ばれ入浴される。	手すりも設置された浴槽は広く、温泉が引かれて利用者に喜ばれている。原則としてはいつでも入浴は可能であるが、利用者の健康状態や希望にも配慮し、週に3回程度の入浴をゆったりと安心して会話も楽しめるよう、声かけや誘導も工夫しながら無理強いすることなく柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を多くし、軽体操やテレビ体操、生活レクリエーションも多く取り入れ夜間の睡眠を確保できるように支援しています。体調や表情も考慮し、仮眠も短時間取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方箋や薬情もファイルに綴じていつでも見れるようにして、与薬は介助し、飲み込みの確認迄しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のできる力を職員は把握していて、できるレクリエーションはお願いしています。終わったら必ず評価してお礼を言うようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大型バスで花見とか、ランチ体験とか行事を取り入れて職員と一緒に出かけられる様に支援をしています。コロナウイルスのため外出制限の中でもホーム前の花壇を観て頂くなどできる中で配慮しています。	現状は感染症による外出制限があるが、従来は利用者の健康状態や天候を見ながら、本人の希望に沿って近隣の公園の散歩やドライブ、スーパーなどへの買い物に出かけている。年に数回は小中学校の運動会・文化祭などへの参加、バスも利用しながら遠方への季節の花見や初詣、ソーメン流し等の外食も支援している。家族の援助のもとでの自宅での食事や墓参り等も勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配や、大切さを理解している入居者には家族からお金をちゃんと預かり金庫に保管していることを伝えています。希望されれば買い物支援もするようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族からの電話は本人につなぎ交流を持っていただくように支援している。ご家族にはいつでも電話連絡が取れる状況にあることを伝えています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペース(台所・食堂)には常に食器洗いの音、ごはんの匂い、昔なじみの音楽、生活感が身体で感じられるよう家庭的な雰囲気である。	玄関には季節の花が飾られ、リビングは明るく家庭的な雰囲気、周囲の壁にはぬり絵や貼り絵、折り紙等の季節を感じられる手作りの作品や行事の写真などを掲示している。ソファ・椅子も配置されて静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。また、清潔感や空調にも配慮が感じられ、利用者にとって気持ちよく過ごせる家庭的な環境である。職員とのレクリエーションは利用者の希望も取り入れ工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース(台所・食堂)にはソファや椅子が置いてあり自由に過ごせるような工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使っていた家具や使い慣れたもの、好みのものを持ってきてもらい、生活環境が大きく変化がないようにして、居心地よく暮らせるように支援しています。</p>	<p>本人のペースで居心地よく過ごせるように、使い慣れた身の回りの小物・テレビ・仏壇・家具・写真・寝具などを持ち込んでもらい、家族とも協力しながら環境づくりを工夫している。居室は明るく、ホームからは洗面台・ベッド・タンス・エアコンが設置されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの位置も分かりやすく表示し廊下すべてに手すりが設置してあり安全に移動ができるようにしている。また自立支援を主にできないところをさりげなくお手伝いをしてプライドを傷つけないようケアを提供している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない